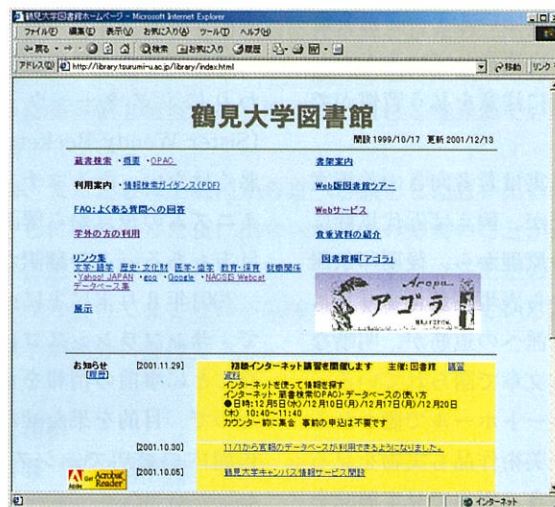




新生「アゴラ」！

図書館事務長 飯島弥栄子



図書館は、今年度大規模なシステム更新をしました。時を同じくして、大学も「キャンパスコミュニティ・システム」を導入して、機械環境を一新しました。そういった中で広報を考えた時、痛感するのが、このままの形を踏襲するだけでは、図書館を利用してくださる皆様の期待に応えられない、との思いです。

広報をマルチメディア対応にすることで、学内外へのお知らせを迅速にし、なおかつ、従来のアゴラが果たしていた役割も継承できる方法を考えた結果、冊子体のアゴラは今回の103号で中止して、ホームページ上のみで刊行を続けることにしました。

図書館統計やお知らせなどは、必要に応じてコピーで発行しますし、先生方への依頼原稿を

始めとする色々な楽しい特集記事なども、今まで以上に力を入れてゆくつもりです。

図書館のシステムは容量が大きく、蓄積機能がありますので、過去に刊行したものを見たいという要望にも応えられますし、ホームページの特性を生かしたあらたな企画も生まれることでしょう。

また、冊子体のアゴラ編集に携わっていた人員を、皆様に対するサービスに振り向けることもできますので、より満足度の高い図書館になると思います。

冊子体で、長い間ご愛読いただいたお礼を申し上げるとともに、次号からは、ぜひホームページの新生「アゴラ」をご覧くださいませようにお願い申し上げます。

わたしの美術案内

英米文学科教授 森 邦夫

2001年11月にゴンブリッチ (E. H. Gombrich) という美術史家が亡くなった。1909年ウィーン生まれだから長寿を全うしたといってよい。かつて『美術のあゆみ』という書名で、翻訳があったと思う。わたしの手許にはこの原本、第16版 *The Story of Art* (Prentice Hall, 1995) がある。この本はわたしにとって最良の美術案内だった。

20世紀アメリカの詩の研究らしきものを始めたとき、ウォーレス・ステイヴンズとかウィリアム・カーロス・ウィリアムズを読んでいて、いかに彼等が美術に親しんでいるか、また実際に当時の前衛的芸術家と交流をしているかがわかってきて、やがて美術に注意を払う習慣ができた。

ゴンブリッチ氏の本は実は若者向きの美術案内のロングセラーなのだが、例えば近代以降について言えば、印象派の原理から、後期印象派への推移、そしてそこから表現主義、キュビズムへの分岐、そして抽象派への道筋が、明晰な英語で、実に説得力ある文章で語られている。

音楽が本来的にコンサートホールで聴かれるべきものであると同様、美術作品も実物を見るのが本来のありようだろう。画集で見て興味をひかれた絵を実際に見てがっかりしたり、逆に画集で見てもさほど興味を覚えなかったのに、実物を見て実におもしろいと思ったりすることがある。わたしの最も好きな美術館はニューヨーク近代美術館 (MOMA) だが、そこには19世紀後半から20世紀半ばまでの眼を奪われる傑作が集まっているからだ。そこで初めてジャクソン・ポロック (Jackson Pollock) の絵を見たときの衝撃は忘れられない。画集でみて何も感じ取れなかったのに、実物はいかに運動に富み、激情にあふれているか初めて実感したのだ。これは画集では画面にでたらめに絵の具を塗ったくったかに見えた、“One: No. 31, 1950” という作品だ。横5メートル、縦2メートルほどの巨大な画面の前で色彩と線が狂おしく踊っている様を長いこと歩き回りながら見ていたも

のだった。

しかし、あらゆる作品を美術館巡りをして見る時間と経済力がある人は少ない。そこで画集と優れた案内書が必要になる。ゴンブリッチ氏は版を重ねるごとに内容を見直している。時間の経過とともに過去の評価も変わるからだ。第16版では20世紀イタリアの画家モランディ (Morandi) の記事と図版が加わった。その後、東京都庭園美術館で「モランディ展」があり出かけ、氏の見識を再確認した。淡い色調の、コップや水差し等の組み合わせに過ぎない絵が、静かな冥想へと見る者を誘う不思議な絵だった。

ゴンブリッチ氏の新版はもう読めないが、代わりにシスター・ウェンディー・ベケット (Sister Wendy Beckett) の美術案内を読むのは、悪くはない。あるマチスの絵をとりあげ、フェミニズムの視点から解説したりするおもしろい見方もある。(この翻訳が図書館に入っている。)

2001年8月末に主に或る美術作品を見る目的で、サンフランシスコに行ったのだが、間抜けなことに事前の情報を正確に調べておかなかったので、目的を果たせなかった。しかし幸い美術館内の書店で、シスター・ベケットの本、*American Masterpieces* (DK Publishing, 2000) を発見した。一枚の絵が、A4版の1ページに収められていて、短いコメントがついている。これはアルファベット順に画家を並べた画集なので気まぐれに好きなページを開いてみても構わない。ここにはわたしの好きなアメリカ絵画の一枚、ウィリアムズの詩からヒントを得て描かれたチャールズ・デュマス (Charles Demuth) 「ぼくは金色の5という数字を見た」 (“I saw Figure Five in Gold”) も入っている。

日本人はヨーロッパの絵画には比較的慣れ親しんでいるようで、印象派などの展覧会は混み合う。意外に日本人はアメリカ美術に馴染んでいない。ポップアートだけがアメリカ美術ではない。シスター・ベケットのこの画集を眺めただけでも、おもしろさは伝わる。

時にこんな本を見るのはどうだろうか。

図書館で箱根を探そう

図書館の新しくなったシステムを使ってみましたか？ せっかくですから図書館のパソコンを使って箱根に関するいろいろな情報を探してみたいと思います。箱根を舞台にした文学作品、ガイドブック、歴史、温泉案内などがあります。また、インターネットを使えば、さらに多くの情報が手に入ります。情報が探し出せたら、さあ、図書館で箱根散策にでかけましょうか。

鶴見大学図書館では神奈川県ゼロの郷土資料をKに分類しています。配架場所は総記0の終わりです。箱根はK 9に並んでいます。

古典文学に現れた箱根

『金塊和歌集 巻之下、雑』源実朝

911.142(他)

箱根路をわが超えくれば伊豆の海や沖の小島に波のよるみゆ 芦ノ湖畔にある箱根神社は、東海地方屈指の神社であり、伊豆山神社とともに鎌倉時代以降將軍家の二所詣での神社でもあった。鎌倉時代の元箱根から、蘆ノ湯、浅間山、湯本、小田原へと辿った駅路の峠から見晴らした島の景色を、鎌倉幕府の將軍だった源実朝も何度かの二所詣での折にこう詠んでいる。

『更級日記』菅原孝標娘

915.36(他)

菅原孝標娘が13才の時、父とともに上総国から京へと旅をした思い出の記録から筆を起こしているが、箱根越えと、ふもとに宿をとった夜に出合った三人の遊女のことが記されている。四日五日の道中ずっと木々が茂り、恐ろしげに見える山だった。ふもとでさえ空の様子がはっきりとは見えず、言いようもなく木が茂り合ってまことに不気味であると書かれている。平安時代の、昼なお暗く恐ろしげな箱根山の様子が十分に想像できる。

近・現代の文学に現れた箱根

『青年 他一編』森鷗外著（旺文社文庫、1977）他

913.6/M-99

作家を志望して上京した資産家の息子小泉純一の、友人や、学者の未亡人である坂井夫人との交渉を通して、青年の精神と肉体上の悩みや成長が描かれている。小説の主な舞台は東京だが、最後の方に箱根の湯本が出てくる。坂井夫人の招待で湯本へ行くが、「純一はわざと坂井夫人のいる福住を避けて、この柏屋に泊まった。」「福住」は歴史や小説にたびたび登場する古い温泉旅館。純一は男と一緒にいる夫人に幻滅し、箱根を去る。

『遠来の客たち』曾野綾子作品選集1 曾野綾子著（桃源社、1975.6）

913.6/S-125/1

主人公の「私」は、アメリカの進駐軍に接収されたホテルの女子従業員。「遠来の客たち」とは、進駐軍のこと。小説にはホテルの名は見えないが、明らかに宮ノ下の「富士屋ホテル」である。英語が話せるので通訳もしている「私」の目を通して見たホテルの人々の生活模様が描かれている。舞台は芦ノ湖や仙石原、宮城野など全箱根に広がっている。この作品は芥川賞候補にあがったものの、果たせなかったが、この時から職業作家の道を歩き始めた著者当時二十三歳の出世作である。

『鳥影の関』杉本苑子全集12 杉本苑子著（中央公論社、1998.3）

913.6/S-138/12

江戸時代、箱根関所には「関所を通る女の旅人の、身体検査をする役」である人見女ひとみおんながいた。人見女である小静は、仇（かたき）持ちの身であり、毎日の業務の中でも緊張を強いられ怯えている。その小静の目を通して、関所を通る旅人たちの哀歌をオムニバス形式で描いている。「人の往来を阻む関を、鳥たちは自由に越えてゆく……。」という、著者が箱根関所で見た渡り鳥に対する感銘がこの題名になった。

歴史から見た箱根

『箱根関所物語』加藤俊之著（神奈川新聞社、1985.3）

K 9/K

箱根町立郷土館の館長であった著者が、箱根の関所を中心とした歴史やエピソードを紹介している。当時行われていた通行チェックの意外な実態や、関所に勤めていた役人達の生活がわかりやすく書かれている。また関所を通る旅人にも目を向け、「関所破り」をした人々の話なども載せている。

『箱根温泉史：七湯から十九湯へ』箱根温泉旅館共同組合編（ぎょうせい、1986.3）

K 9/H

箱根温泉は、天平10年（739）に釈浄定坊により湯本温泉が発見されたことから始まった。この本は箱根温泉旅館共同組合が90周年を迎えた記念として、温泉の概要や周辺の開発の歴史など、関連の事柄について触れている。箱根とともに生きる人々の意気込みが伝わってくる。

『伊豆と黒潮の道』街道の日本史22 仲田正之編（吉川弘文館、2001.5）

210.08/K/22

西暦2001年は「街道制定400周年」ということで、さまざまな関連本が出版された。東西交流の中継地として大きな役割を担ってきた伊豆・箱根の歴史、文化を追及した本書では、「街道」というつながりを通して地域の中の「箱根」を見ることができる。

箱根番外編

『漂泊の聖たち：箱根周辺の木食僧』西海賢二著（岩田書院、1995.6）

180.28/N

木食僧とは、木の実や果実を食べ、米や野菜を常用しない木食戒を守る僧侶のことであるが、小田原・箱根周辺でも近世初期から人々の熱狂的な信仰を集めた木食たちが活躍していた。江戸時代から明治時代初期までに活動した7人の民間宗教者の足跡を追うことにより、人々が彼ら木食にどのような期待を寄せていたのか、庶民の信仰の対象者としての実像に迫る。

“Inter Net” で箱根の美術館・博物館を探そう

箱根・芦ノ湖成川美術館（<http://www.narukawamuseum.co.jp/>）

㊤足柄下郡箱根町元箱根570 ☎0460-3-6828



日本画のみを収蔵。平山郁夫、東山魁夷、杉山寧、加山又造、高山辰雄、山本丘人等大家の作品を含めて1500点所蔵し、年に4回の展示替えをしています。企画展も随時行われていておすすめの美術館です。

箱根芦ノ湖美術館（<http://www.unimat-offisco.co.jp/family/hakone/>）

㊤足柄下郡箱根町元箱根1 ☎0460-3-1600

ルノワールやムンク、ミレーの作品など17世紀から近代までの西洋の名画を所蔵する美術館で芦ノ湖に行った際には立ち寄りたい美術館です。

彫刻の森美術館（<http://www.hakone-oam.or.jp/>）

㊤足柄下郡箱根町二ノ平1121 ☎0460-2-1161



広い敷地内にはヘンリー・ムーア・コレクションをはじめ、様々な彫刻家の作品が点在しており、道に沿ってゆったりと歩きながら鑑賞できます。また、ピカソの作品のみを展示するピカソ館や、国内外の巨匠の作品を堪能できる絵画館などもあり、何度行っても飽きない美術館です。

UKAI 箱根ガラスの森 (<http://www.ukai.co.jp/garasunomori/>)

㊤足柄下郡箱根町仙石原940-48 ☎0460-6-3111



敷地内にはヴェネチアン・グラス美術館と現代ガラス美術館の二つの館があり、それぞれ15世紀から18世紀の作品と、20世紀の作品を鑑賞できます。ふだん何気なく使っているガラスがアートになるとどうなるのかが見所だと思います。

オルゴールの小さな博物館 (<http://www.d-cue.com/leisure/museum/orgorl.htm/>)

㊤足柄下郡箱根町湯本740 ☎0460-5-9888

コミカルな動きを見せるからくりオルゴールをはじめ、常時50台くらいのオルゴールが展示されています。芸術品クラスのオルゴールを見て聴く事でオルゴールに関心がわく事請け合いです。

星の王子さまミュージアム (<http://www.lepetitprince.co.jp/musee/>)

㊤足柄下郡箱根町仙石原元湯場909-1 ☎0460-6-3700



小説家サン＝テグジュペリの写真や直筆のイラスト、「星の王子さま」に登場する人物のフィギュアなどが展示されています。鶴見大学図書館ではサン＝テグジュペリの本は“958/S”に分類されていますのでどうぞご覧ください。

テディベア・ミュージアム (http://www.teddynet.co.jp/hakone/hakone_main_f.html)

㊤足柄下郡箱根町元箱根143-1 ☎0460-6-2311

周囲を緑で囲まれたこの美術館には、約1200体のテディベアが展示されています。極めて珍しいテディベアにも会えるので、興味のある方は是非ご覧ください。

県立生命の星・地球博物館 (<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/museum/g.html>)

㊤小田原市入生田 ☎0465-21-1515



箱根からは少し離れますが程近い入生田駅から歩いて行ける所にあります。重さ3トンもある隕石をはじめ、大きなアンモナイトの化石など子供から大人まで存分に楽しめる展示内容です。映像ホールではクイズ形式で楽しく学べます。

箱根関所資料館

㊤足柄下郡箱根町箱根1 ☎0460-3-6635

箱根は幕末まで関所でしたが、それに関する資料を約1000点展示しています。

箱根神社宝物殿

㊤足柄下郡箱根町元箱根 ☎0460-3-7123

古文書のほか彫刻や絵巻物、短刀など重要文化財に指定されているものもあります。

もっと箱根について知りたい方のために

箱根町役場ホームページ (<http://www.town.hakone.kanagawa.jp/>)

箱根町インターネット協会 (<http://www.hakone.or.jp/>)

HAKONE ALL GUIDE (<http://www.hakoneyama.com/>)

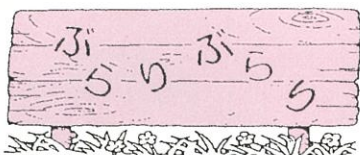
箱根ビジターセンター (<http://www.mmjp.or.jp/HakoneVisitorCenter/>)

箱根登山鉄道ホームページ (<http://www.hakone-tozan.co.jp/>)

新刊あらかると

最近整理された本の中から図書館員がおすすめする本を紹介しています。すべての新刊本は、入口正面の新着図書展示棚に1週間展示されます。

総記	・ こどもの本の使いかた 吹田恭子編著 (子どもと児童書を楽しむ、学ぶ)	019.5/S
	・ 書物について 清水徹著 (書物が持つ特質と在り様について)	020.2/S
哲学	・ 京都学派の哲学 藤田正勝編 (現代で京都学派が持つ哲学的意義)	121.9/K
	・ 二宮尊徳翁の訓え 福住正兄著 (“人間” 金次郎から学ぶことは?)	157.2/F
	・ 現代を生きる仏教 秋月龍珉著 (青年に向けた生きる法を説く思想)	180.4/A
	・ 読経の世界 清水眞澄著 (読経を聞く人々の癒しのメカニズム)	186.5/S
歴史	・ 採集：ブナ林の恵み 赤羽正春著 (採集・狩猟民の暮らしを再現する)	210.108/M/103
	・ 交流する弥生人 高倉洋彰著 (弥生人の衣食住を日常生活を通して知る)	210.2/T
	・ 長安の都市計画 妹尾達彦著 (都に秘められた物語と意味)	222.16/S
	・ 近代インドの歴史 ビパン・チャンドラ著 (インドの植民地主義等を理解する)	225.05/C
	・ 階級としての動物 ハリエット・リトヴァ著 (英国の人間と動物の関係)	233.067/R
社会科学	・ 文明開化と差別 今西一著 (社会に潜む差別の歴史的背景を問う)	316.3/I
	・ 現場の成年後見Q&A 田山輝明他編 (成年後見法の内容について)	324.65/G
	・ 母という暴力 芹沢俊介著 (母性と暴力を切り離さずに論じる)	367.3/S
	・ 老後を自立して 加藤恭子他著 (アメリカの高齢者に学ぶ自立心)	367.9/K
	・ 地域で生きる AJU自立の家編 (障害者の自立的生活の記録)	369.27/C
	・ 多動な子どもへの教育・指導 石崎朝世他著 (ADHDの理解と認識をする)	378.8/T
	・ 食の変遷から日本の歴史を読む方法 武光誠編 (歴史の中で食が持つ意味)	383.8/T
自然科学	・ 死にゆく患者のメッセージ 南吉一編著 (アメリカの在宅医療の体験記録)	490.14/S
	・ Whiteeth 佐藤恭子文 藤枝リュウジ絵 (菌を白くするブリーチングの話)	D5/S
	・ 健康と医療の社会学 山崎喜比古編 (この分野における標準的な入門書)	498/K
工学・技術	・ 悪魔の生物学 エド・レジス著 (生物兵器開発のドキュメント)	559.39/R
芸術	・ 日本仏像史 水野敬三郎監修 (日本における仏像の受容と造像の歴史)	718/N
	・ 北斎の謎を解く 諏訪春雄著 (天才画家の人生と芸術の謎に迫る)	721.8/K
	・ リストヴィルトウオーヅの冒険 ジャンケレヴィッチ著 (19世紀の音楽文化の本質)	762.06/J
	・ マイルス・デイビス 田中公一朗著 (実際のマイルスの姿を解き明かす)	764.7/T
	・ 人形浄瑠璃の歴史 廣瀬久也著 (浄瑠璃から歌舞伎までの通史)	777.1/H
語学	・ ことばの認知科学事典 辻幸夫編 (各界の気鋭による言語研究ハンドブック)	801.01/K
	・ ヤマト言葉語源辞典 朴炳植著 (世界の言葉に通用する音韻変化法則の発見)	810.29/P
	・ ビジネス日本語教育の研究 池田伸子著 (日本語の意思疎通の問題を解決する)	810.7/I
	・ ヒエログリフ事典 マリア・カルメラ・ベトロ著 (文字が語る古代エジプト文明の全貌)	894.2/B
文学	・ アメリカ! 幻想と現実 八木敏雄編 (日本の作家が描くアメリカに関するエッセイ)	930.62/A
	・ ヒーローから読み直すアメリカ文学 佐々木木よ子編 (ヒーローを女の立場で定義する)	930.62/H
	・ マザー・グースと日本人 鷺津名都江著 (マザー・グースから日本人の可能性を探る)	930.8/W
	・ シェイクスピアを読み直す 柴田稔彦編 (各作品に潜む謎の解説)	932.7/S
	・ ハリー・ポッター裏話 J.K.ローリング他著 (少女が掴んだ夢と作品誕生秘話)	939.0/R-35
	・ ヘミングウェイのジェンダー N.R.カムリー他著 (作品から読み取れる新たな事実)	A 934.33/H
	・ ポケットから出てきたミステリー カレル・チャペック著 (変わった人が奏でるミステリー集)	989.53/C



小田急線本厚木駅からバスで45分ほどのところに宮が瀬ダムという貯水・水量調節・水道・発電などの多目的ダムがあります。少し長い道のりですが、バスに乗っていると、長閑な田園風景や、道端に出ている野菜販売など、心が安らぐような風景が見られるので、あっという間に到着するでしょう。

ダムに着いたらまずは一息。そこには、数々のお店が軒を連ねています。なかでも“旅館みはる”にあるきのこ汁は、地元の採れたてきのこを何種類も使っているのが絶品です。

落ち着いたところで散歩をしてみるのはいかがですか。ダム沿いに歩いていると虹の大橋という逆ローゼ橋としては、日本最長330mという長い橋があります。そこは、とても見晴らしが良いところです。また、ダムの頂上も見晴らしが良く展望塔に上がると雲一つない時は、な

んと横浜のランドマークやベイブリッジまでを見ることができるそうです。

宮が瀬ダムは、その他にも一面芝生が敷きつめられている広場や、ダムの仕組みを学べる「水とエネルギー館」や遊覧船などがあります。芝生の広場ではたくさんの人が野球やバドミントンなどをして遊んでいて、いつも賑わっています。そこで遊んでいれば、もしかしたら野生の鹿や猿に遭遇することもあるかもしれません。

宮が瀬ダムを満喫したら帰り道、寄り道をしてみましょう。厚木駅に向うバスに乗って10分程のところに「アツギミュージアム」という温泉宿があります。宿泊施設・温泉はもちろんのこと、備長炭で焼く炉懷石料理や野武士料理・ひ扇貝料理などがそこで楽しめます。また、郷土玩具が八千点ほど展示してあります。

ちょっとした旅行気分が味わえると思うので、一度是非ぶらりと行って下さい。

(総務部総務課 佐藤由佳)

図書館ワンポイント・アドバイス(16) インターネットでの古書購入について

前回(101号)ではブックオフ(<http://www.bookoff.co.jp/>)を紹介しました。今回は古書を網羅的に扱うホームページを紹介します。インターネットで紫式部(<http://www.murasakishikibu.co.jp/oldbook/>)を開いてみましょう。このホームページは全国の古書店案内と、注文可能な古書の検索を行えるサーチエンジンとからなります。サーチエンジン“スーパー源氏”の使い方を説明します。自分が求める古書の書名、著者名等を入力欄に入力し、検索します。該当する古書の情報が出てきますので、自分が欲しい本であることを確認し、価格も満足するものであれば、注文ボタンを押し、必要事項を入力して完了です。出てきた古書の情報で、その古書の在庫がある店の所在や電話番号を知ることできます。

次に各地域の古書店の情報を手に入れてみましょう。紫式部ホームページ上の“貴方の町の古書店”をクリックすると全国古書店データベースにつながります。都道府県別に分かれていますので、知りたい都道府県をクリックします。ここでは“神奈川県”を選びます。一覧が出たら自分の求める古書店の住所、名称を入力します。“鶴見”と入力します。どうですか？鶴見区にある古書店一覧が出てきたと思います。これで情報入手に成功です。今回はインターネットによる古書購入ということで出てきた一覧の中から西田書店を選んでみましょう。西田書店は鶴見大学図書館や神奈川県立図書館といった公共図書館も取引している古書店です。ホームページでは、在庫の一部ながら検索が可能となっています。欲しい本が検索した結果出てくれば、あとはスーパー源氏の利用法で書いた通りです。もしなくても、西田書店の場合は数十万点未登録の古書があるということなので、メールで尋ねてみるといいでしょう。

図書館だより

1

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

3

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

4

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

開館時間 平日 9:00~20:00 (水曜日は9:30開館) / 土曜日 9:00~16:00
 赤字: 休館日 □: 開館時間短縮日 (平日 9:00~16:30 水曜日は9:30開館/土曜日 9:00~12:30)
 □: 月末短縮開館 (13:00~20:00)
 視聴覚室は月~金の10:00~18:30開室
 ○は、初級インターネット講習の日 10:40~約1時間

3月に卒業する皆さんへ

本の返却を忘れていませんか? 最終返却日は3/15(金)です。

皆さんの借りている本は、つづいて後輩の方々が利用するものですから、返却されないと困る人がたくさん出てきます。また、借りたまま卒業すると、実家や就職先に督促の連絡をすることになります。

返し忘れていた本がないかどうか、
もう一度確かめましょう。



卒業してからも本を借りたい方は、

4月以降に卒業生貸出の手続きをすると、500円の登録料で、1年間(申請日から翌年の申請日まで)有効な図書館利用カードを発行します。
 貸出冊数3冊・貸出期間1ヶ月です。
 ぜひ、ご利用ください。

視聴覚室は、
1/15(火)~4/9(火)
まで閉室します。

アゴラ - 鶴見大学図書館報 - 第103号 2002年1月15日発行 編集・発行 鶴見大学図書館 露木 悟義
 〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 ☎045-581-1001・FAX045-584-8197
<http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/index.html>

印刷/朝日オフセット印刷株式会社